



平成30年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年9月6日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年4月期第1四半期の業績(平成29年5月1日～平成29年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年4月期第1四半期	1,388	12.9	141	4.7	142	5.4	98	7.1
29年4月期第1四半期	1,230	2.7	135	18.2	135	16.5	91	17.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年4月期第1四半期	5.87		5.84					
29年4月期第1四半期	5.48		5.45					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年4月期第1四半期	5,191	4,539	87.4
29年4月期	5,325	4,603	86.3

(参考) 自己資本 30年4月期第1四半期 4,535百万円 29年4月期 4,597百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年4月期	—				
30年4月期(予想)		0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年4月期の業績予想(平成29年5月1日～平成30年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,696	4.7	771	△3.7	776	△3.6	541	△5.5	32.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、業績管理を年次で行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年4月期1Q	17,464,000株	29年4月期	17,464,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

30年4月期1Q	688,941株	29年4月期	717,741株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年4月期1Q	16,752,963株	29年4月期1Q	16,733,859株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策などの効果により、企業収益や雇用情勢の改善傾向が継続し、緩やかな回復基調で推移しておりますが、海外の政治情勢や経済状況の不安定さの高まりから、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、主力である遺影写真加工収入が堅調に推移し、また、ハード機器や額の売上も順調に推移しました。また、エアリアルイメージング事業とのコラボ製品であるAI焼香台の売上も計上されました。

一方、費用面におきましては、人員増に伴い人件費が増加し、また旅費交通費など経費も増加いたしました。

以上の結果、売上高は564,052千円（前年同四半期比104.9%）、セグメント利益は152,477千円（前年同四半期比98.2%）となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、自社営業による契約獲得に加え、展示会への出展、ASUKABOOKセミナーの実施や、新製品のリリースなどの施策により、売上は順調に推移いたしました。

一般消費者向け市場では、各種キャンペーンや効果的なネット広告の実施などにより、写真愛好家層やこだわり層を中心に受注獲得に努めてまいりましたが、競争環境が厳しく、一般消費者向け売上は想定を下回りました。一方、OEM供給に関しましては、サービスの浸透が進み、売上は順調に増加いたしました。

利益面につきましては、稼働率の上昇などにより粗利率が向上し、各種経費も適切にコントロールしたため、セグメント利益は大きく伸長いたしました。

以上の結果、売上高は793,852千円（前年同四半期比115.6%）、セグメント利益は187,774千円（前年同四半期比142.6%）となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレートの量産立ち上げを最重要課題として取り組んでおります。

ガラス製プレートにつきましては、依然として十分なコストダウンは図れておりませんが、大型プレートを含め、さらに品質は向上しており、展示会出展の成果もあり、徐々にサイネージ用途を中心に売上を増加させております。樹脂製プレートにつきましては、量産の可能性を有している新製法での試作を優先的に重ねており、量産を前提とした試作品の完成および提供に向けて、進めております。

マーケティング面におきましては、国内では平成29年7月に店舗販促Expoに出展し、海外では2ヶ所の展示会に出展しました。この他、今期中に国内はCEATEC、海外はドバイでの展示会の出展を計画しております。

国内外ともサイネージ用途でロットは小さいものの、大型サイズのAIプレートの売上や、筐体やセンサーをセットしたパッケージ売上が増加し、売上は前期に比べ大きく増加しました。

費用面では、国内外の展示会出展のための広告宣伝費や出展に伴う旅費交通費、また、特許申請費用などが増加いたしました。

以上の結果、売上高は33,224千円（前年同四半期比557.9%）、セグメント損失は72,351千円（前年同四半期は36,204千円の損失）となりました。

以上の結果、売上高は1,388,970千円（前年同四半期比112.9%）となり、利益面につきましては、エアリアルイメージング事業において海外展示会など先行費用の発生により損失が拡大したものの、パーソナルパブリッシングサービス事業における順調な利益の伸長により、経常利益は142,931千円（前年同四半期比105.4%）、四半期純利益は98,263千円（前年同四半期比107.1%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ133,399千円減少し、5,191,847千円となりました。これは主に、法人税等や配当の支払いにより現金及び預金が74,242千円、受取手形及び売掛金が40,577千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ69,623千円減少し、652,179千円となりました。これは主に、未払法人税等が91,270千円、賞与引当金が61,100千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ63,776千円減少し、4,539,667千円となりました。これは主に、四半期純利益を98,263千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,462千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月9日に発表いたしました平成30年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成29年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,278,251	2,204,009
受取手形及び売掛金	686,517	645,939
商品及び製品	166,123	173,909
仕掛品	12,038	13,987
原材料及び貯蔵品	56,972	61,451
その他	112,648	89,956
貸倒引当金	△3,163	△3,215
流動資産合計	3,309,387	3,186,038
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	499,750	495,861
機械及び装置(純額)	422,616	391,687
土地	432,702	432,702
その他(純額)	150,493	184,307
有形固定資産合計	1,505,562	1,504,559
無形固定資産	211,874	203,625
投資その他の資産	298,423	297,623
固定資産合計	2,015,859	2,005,808
資産合計	5,325,247	5,191,847
負債の部		
流動負債		
買掛金	118,905	121,899
未払法人税等	143,270	52,000
賞与引当金	129,000	67,900
その他	317,028	397,256
流動負債合計	708,204	639,056
固定負債		
退職給付引当金	6,482	6,482
その他	7,115	6,640
固定負債合計	13,597	13,123
負債合計	721,802	652,179
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,803,101	3,729,235
自己株式	△309,764	△297,334
株主資本合計	4,590,222	4,528,785
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,579	6,954
評価・換算差額等合計	7,579	6,954
新株予約権	5,642	3,928
純資産合計	4,603,444	4,539,667
負債純資産合計	5,325,247	5,191,847

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)
売上高	1,230,223	1,388,970
売上原価	611,520	664,785
売上総利益	618,703	724,184
販売費及び一般管理費	483,514	582,611
営業利益	135,188	141,572
営業外収益		
受取利息	272	167
受取配当金	611	610
受取手数料	138	135
為替差益	—	446
その他	35	8
営業外収益合計	1,057	1,369
営業外費用		
為替差損	636	—
その他	—	10
営業外費用合計	636	10
経常利益	135,609	142,931
特別損失		
固定資産除却損	—	550
特別損失合計	—	550
税引前四半期純利益	135,609	142,381
法人税等	43,879	44,117
四半期純利益	91,730	98,263

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	537,559	686,708	5,955	1,230,223	—	1,230,223
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	537,559	686,708	5,955	1,230,223	—	1,230,223
セグメント利益 又は損失(△)	155,231	131,725	△36,204	250,751	△115,562	135,188

(注) 1 セグメント利益の調整額△115,562千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	564,052	793,852	31,064	1,388,970	—	1,388,970
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	2,160	2,160	△2,160	—
計	564,052	793,852	33,224	1,391,130	△2,160	1,388,970
セグメント利益 又は損失(△)	152,477	187,774	△72,351	267,899	△126,327	141,572

(注) 1 セグメント利益の調整額△126,327千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。